



ひきよせ

いちれつきょうだい 芽吹きの日



写真左上より時計周りに、春の学生おちばがえり【①式典前詰所、②直属アワー（大教会長さんのお話）、③青年会あらきとくりよう入門塾【ひのきしん】、④祝梅若人会総会、⑤おちばにて新修養科生3名

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

全教一斉ひのきしんデー 4月29日（火祝）
月次祭 5月15日（木）9時30分開扉献饌
少年会夕張団総会 5月24日（土）

暖かさはごちそう

冷え切った身体で、ボワッと暖かな部屋に迎えられたら、美味しいご飯と同じくらいご馳走に感じるもの。暖かさは優しさ。人をたんのう（満足）させ、安心させる事が優しさだと、親神様のお言葉にあります。優しい心を持つてくれ。人の心を養うように、優しいなあと思われるような心が陽気暮らしの土台だと言われます。また優しさとは「言葉と愛想（笑顔）」とも親神様は仰います。

この春3月、おちばでは大学生層の学生生徒修養会や、春の学生おちばがえりが開かれ、夕張でもおちばの行事に帰って来てくれた学生さん方を詰所に迎え、更には4月から三ヶ月の修養科へ進んで下さいました方々もお迎えし、私は心に大きな楽しみを頂戴致しました。この方々にどうでも、おちばでおやさまのお言葉に触れて頂き、心に安らぎを得て頂きたいと願いま

す。私も自分に出来る陰のひのきしんを求め、用木らしく努めたいと思います。

今月、とある先で難しい事情の相談を頂きました。心優しいその相談者の方々のお話を聞かせて頂き、明るい道が無いものか探しました。随分時間が経ち、ふと頭に浮かばせて頂いた事を頼りに、起きた出来事は変えられないけれど、じゃあ自分達は今、誰に助かって貰いたいのだろう。誰に楽になって貰いたいのだろうと、話は今まで考えの中に無かった人達への、明るい気遣いや、心配りこそが、これから自分達に出来る事だとの悟りへ繋がりました。

やる事がはつきりして晴れやかとなったお顔を見て、なんと優しい人達だろうと思いました。おちばで過ごされる方々も、人の優しさこそがご馳走である事をきくと感じて頂けるものと思っております。

大教会長 藤田大和

よ、つていうことを、本当に心から信じきって伝えていくことが大事だと思えますね。細かい話よりも、こちらが本当に信じている、ということが伝われば、このお道に誇りを持って歩んでくれるのではないかと思います。ですから、お互い自信を持ってつとめてさせていただきます。

抗がん剤治療が4回終わった時に、またカメラを飲んで、その後の経過を見せてくれました。初めに見た時はモニターいっぱい腫瘍が映ってたんですが、『あれ？綺麗でないか？』と、パッと見では分からないぐらい、小さくなってます。あんなるほどな、抗がん剤なんてあんなもの効かないと思っただけども、効くんだった。思いました。体の調子は本当にこんなに元気だね、前よりも元気な顔してる、と皆さんにも言っていたと思います。」と明るく語っていた。

終了後には大勢の春休み中の少年会員が、お下がり作りのひのきしんに励んでいた。また久しぶりに女子青年のコーヒードが開店し、OGや未来の女子青年達も手伝って、賑やかな様子に参拝者も嬉しそうであった。

(藤崎勇)



をやるの懐で、学び楽しむ 立教188年 春の学生おちばがえり

去年初めて参加した時に、とても楽しくてまた参加したいと強く思い、半年前には予定を決めて、今年も参加させていただきました。期間中には、春学の行事はもちろん、空いている時間に、天理大学を見せていただいたり、初席を受けて、陽気ぐらしの大切さや人に喜んでもらうことの大切さを学びました。ひのきしんもさせてもらい、いろいろ悩んでいたことがリフレッシュされた感じがしました。

参加者の声 大橋宗馬(高3・由仁)

天理教学生会は、3月28日に春の学生おちばがえりを、雨天のため本部神殿内で開催し、夕張学生会から5名が参加した。式典では、真柱様から頂戴したメッセージを胸に治め、学生代表の体験発表では、同年代の学生が、信仰に導かれ、様々な悩みを乗り越えていく姿に、一同大きな感動と刺激を受けた。また夕張学生会は式典終了後、日頃生かされている感謝を込めて、廻廊ひのきしんをつとめた。

その後の直属アワーでは、大教会長さんのお話に耳を傾け、振り返りのねらいあいをを行った。さらには、楽しくクレープを手作りし、口の中がはちきれんばかりの分厚いクレープを満喫した。夕方には、本部夕づとめを参拝し、夕食は天理名物ジャンボタコ焼きと、まさに充実の一日を過ごした。また前日には、春フェス(前夜祭)に参加し、屋台やステージ催事など、若さ溢れる賑やかな空間を大いに楽しんだ。

(学担委員長・岩佐)

学修に参加して 天理大学2回生 富山知理(栗山)

今回の学修に参加することが決まったとき、最初は不安な気持ちがありました。初めての経験で何も分からず、うまくやっていけるのか心配だったからです。しかし、これまで参加した人たちが口を揃えて「本当に楽しかった!」と話しているのを聞き、少しずつ楽しみな気持ちも芽生えてきました。そして、友達と一緒に参加できることが決まり、不安よりも期待のほうが大きくなりました。

学修が始まると、想像以上に充実した日々が待っていました。たくさんのゲームや、お互いを知るためのアクティビティが盛り込まれており、四六時中一緒に過ごすことで、すぐにみんなと打ち解けることができました。朝晩の参拝や、ゲームを通じて教祖のことを学ぶ機会も多く、楽しみながら学びを得ることができました。

特に印象に残ったのは、年齢や性別を問わず、たくさんの仲間ができたことです。普段の生活では関わるこ

のないようなさまざまな性格の人と出会い、それぞれの個性を尊重しながら、和気あいあいとした雰囲気の中で過ごせたことが、とても新鮮で貴重な経験でした。

また、大学に入り親元を離れてから、改めて友達の大切さを実感することが増えていましたが、この学修を通じて、その思いがさらに強まりました。たくさんの方がいる中で、このご縁をいただけたことに心から感謝しています。

なかでも、私の心に残ったのは「また会える。かならず。それまでは喜びの種まきを」という言葉です。この言葉のように、日々の生活の中でも、周りの人に喜びを届けながら、自分自身も成長していけるようにしていきたいと思います。

この学修は、新しい学びや気づきを得られる貴重な場です。最初は不安でも、実際に参加してみると、かけがえのない時間になることを実感しました。だからこそ、ぜひ多くの人に、この素晴らしい経験をしてほしいと心から思います。

